

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

令和元年 8 月 6 日に令和元年度第 1 回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（令和元年 8 月～12 月の見通し）が発表されましたので、その結果を基に本県海域での予報を報告します。

■ 海況

黒潮：A 型で推移する。流路は伊豆諸島海域の西側を北上することが多い。
（説明）2017 年 8 月に大蛇行になり、継続しています。大蛇行終息の兆しは確認されていません。

沿岸水温：相模湾は「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時に「極めて高め」となる。伊豆諸島海域は「高め」～「極めて高め」で推移する。

（語句説明）平年並：平年値±0.5℃程度、
高め：平年値+1.5℃程度
極めて高め：平年値+2.0℃程度

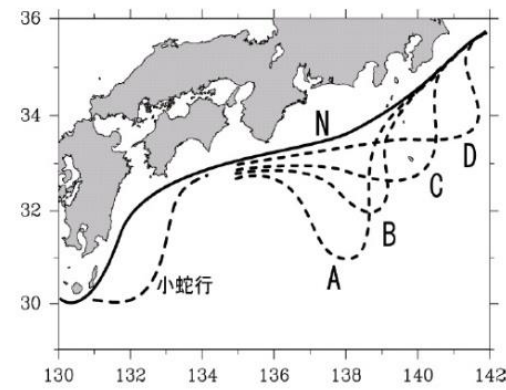


図 1 黒潮流型の分類

■ さば類（マサバ）

来遊量：前年並。

（説明）マサバ太平洋系群の資源量は、2000 年代以降増加していますが、神奈川県沿岸の定置網や一本釣りでの漁獲量は、資源量の増加に反して、ここ数年減少しています。

これまでの研究から、東京湾～相模湾におけるマサバ漁獲量は、①当年 6 月の伊豆大島周辺の塩分、②当年 5 月の三崎沿岸定置網のマサバ漁獲量、③ 当年 8 月の東京湾の水温と関係があると考えられています。この関係に基づき、今期の来遊量を予測したところ、前年並と見込まれました。

魚体サイズは、1～5 月に県漁業調査指導船「江の島丸」が伊豆諸島周辺で行った調査で尾叉長 30～34cm（体重 310～470g）主体に漁獲されたことや、7 月現在、相模湾の定置網で同サイズが多く漁獲されていることから、今シーズンはこのサイズが主体となるでしょう。



■ マイワシ

来遊量：好漁であった前年並。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量は、2010 年以降増加しており、太平洋側各地で漁獲量が増加傾向にあります。

本県沿岸域では、4 月上旬に中～大羽を主体に来遊がみられ、4 月だけで 616 トンと、4 月では 1999 年以降最大の漁獲量となりました。一方、6 月からは 0 歳魚（2018 年級群）の来遊が始まったものの、好調であった前年や平年（過去 5 年平均）と比較すると低調に推移しました。

2019 年 8 月～12 月は、0 歳魚が漁獲の主体となるでしょう。下半期の本県沿岸域の 0 歳魚の漁獲量は、相模湾の春シラス漁におけるマシラス漁獲量と正の関係が認められています。今年のマシラス漁獲量は前年同期の 270%であったことから、夏季のマイワシの漁獲量の大きな伸びが期待されますが、前年の夏季以降のマイワシ漁獲量は特異的に好漁であったことから、今漁期の来遊水準は好漁であった前年並となるでしょう。



■ カタクチイワシ

来遊量：低調であった前年並。

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004 年以降減少しており、特に黒潮親潮移行域等、沖合域の分布量の減少が顕著になっています。魚体サイズの傾向も高水準期を支えた大型成魚（体長 12cm 以上）の来遊が激減しており、未成魚～小型成魚が主体となってきています。

2019 年 8 月～12 月は、未成魚（体長 9cm 未満）が漁獲の主体となるでしょう。7 月までの漁況経過からしても、8 月以降、急激に来遊量が増加するとは考えにくい状況にあります。



■ マアジ

来遊量：前年を上回る。

（説明）現在の東シナ海を発生起源とするマアジ太平洋系群の資源量は低位・減少傾向であり、南方海域からの相模湾への来遊は期待出来ません。

一方、今年の相模湾では 5 月～7 月のジンダ漁獲が好調であったことから、相模湾周辺海域での発生群が平年よりも多く加入したと考えられます。このことから 2019 年 8 月～12 月の来遊量は前年を上回るでしょう。

